

里地環境と地域経済

里地づくりは、持続的経済的価値につなげることができます。地域の素材を材料とし、地域の自然の豊かさなどを付加価値とした、地域独自の「里地産品」が作れます。グリーンツーリズムなどの機会を利用して、消費者に生産に関する情報を提供し、消費者との信頼を築きます。それは、生産者・消費者の区別なく生活者として同じ立場に立つ過程でもあります。

事例 ^{ふじわらちょう}三重県藤原町

集落営農(注)

藤原町古田地区では、高齢化等に伴う農地の耕作放棄を防ぐため、作業受託をする有限会社を作りました。集落内で作業や機械を共有し、生産だけでなく加工販売も集落で手がけ経営上の困難を乗り越えています。受託した耕地の作業や加工販売には、社員のほか集落内からも雇用します。



耕作放棄地を出さないように、作業請け負い、維持管理している水田

グリーンツーリズム

古田地区は「地域の美しい自然を守り楽しむ」ことを目的にグリーンツーリズムに取り組み、地域環境の保全を多様な担い手で支えています。農業体験、森林整備と炭焼き、休耕田を活かしたビオトープ整備のほか、地域の自然や景観を味わうために集落内の道を散策路に設定したマップを作成しています。



里地産品と拠点

集落営農で生産した米で和菓子を加工、販売しています。加工販売施設は、ツーリズムの拠点でもあり相乗効果を生み出しています。自然の豊かさなどが販売する和菓子や地場産野菜に付加価値をつけ、都市住民の訪問を促します。

和菓子の加工販売の仕事は地域住民の雇用も創出しています。



加工販売、交流 住民の雇用の拠点ができ、地域に新しい経済が生まれた